

2007 年度マクロ経済学の基礎 中間テスト

問題 1 (2 点 × 45)

(1) 供給曲線の形状は通常次のうちどれになるか。

右上がり 右下がり 垂直 水平

(2) 付加価値とは、生産額から何を引いたものか。

資本減耗 中間投入 間接税 補助金

(3) マルサスは人口と食料のどちらの増加スピードが速いと考えたか。

どちらでもない 食料 人口 同じスピード

(4) 失業率は、何に対する失業者の比率か。

就業人口 総人口 男子人口 労働力人口

(5) 次のうちフローのデータはどれか

マネーサプライ 国富 資本ストック 国内総生産

(6) 名目 GDP が 750 兆円で、デフレーターが基準年を 100 として 150 のとき、実質 GDP はいくらか。

750 1125 500 350

(7) 公的固定資本形成は、簡単な言葉で何と呼ばれるか。

設備投資 公共投資 民間消費 政府消費

(8) 1 ドル 100 円から 1 ドル 200 円になることを何と呼ぶか。

円安 円高

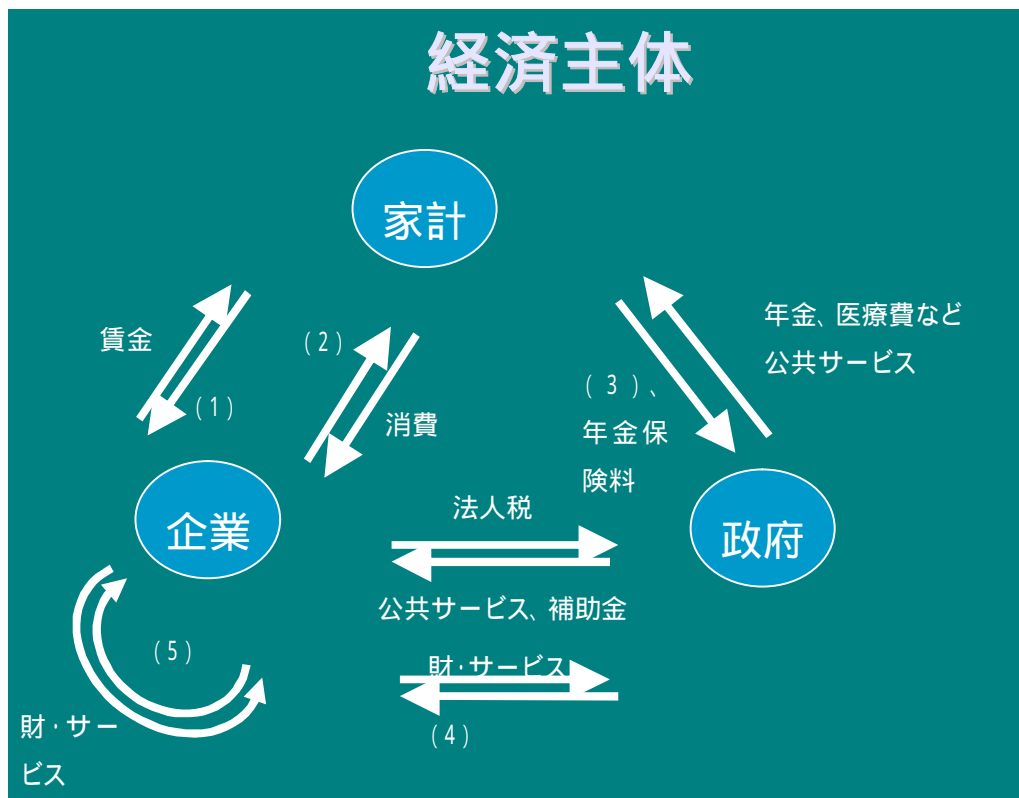
(9) 新古典派が重視するのは、次のうちのどれか。誤っているものを一つ選べ。

政府 供給 市場 金融政策

(10) 生産物とそれに対応する労働力が次の表で与えられるとき、比較優位の原理に従えば、日本は自動車と小麦のどちらを作ることになるか。

自動車 小麦

生産物 1 単位を作る のに必要な労働		国	
		日本	米国
生 産 物	自動車	100 人	90 人
	小麦	120 人	80 人



(11) 図の (1) に入る言葉のうち適当なものはどれか。

財・サービス 労働力 所得税 政府支出

(12) 図の (2) に入る言葉のうち適当なものはどれか。

労働力 財・サービス 所得税 政府支出

(13) 図の (3) に入る言葉のうち適当なものはどれか。

労働力 財・サービス 所得税 政府支出

(14) 図の (4) に入る言葉のうち適当なものはどれか。

財・サービス 消費税 政府支出 労働力

(15) 図の (5) に入る言葉のうち適当なものはどれか。

財・サービス 消費税 労働力 投資

国民経済計算の諸概念について以下の値が与えられている。

最終消費支出	250	総固定資本形成	120	在庫品増加	10
財・サービス輸出	60	財・サービス輸入	40	固定資本減耗	10
間接税 - 補助金	20	海外からの要素所得の受取	20		
海外からの要素所得の支払	10				

(16) 国内総生産はいくらか

380 480 500 400

(17) 国民総生産はいくらか

390 490 510 410

(18) 国民純生産はいくらか

380 480 500 400

(19) 国民所得はいくらか

400 410 380 490

(20) 経済政策の担い手のうち正しいものはどれか

財政政策 = 経済産業省 貿易政策 = 厚生労働省

金融政策 = 日本銀行 競争政策 = 日本興業銀行

(21) スタグフレーションとはなにか

デフレと不況の共存

インフレと不況の共存

デフレとインフレの共存

インフレと好況の共存

(22) シュンペーターの言葉として有名なものはどれか。

ユートピア

創造的破壊

共産主義

人口論

(23) 名目と実質について正しいものはどれか

名目 / 物価 = 実質

実質 / 物価 = 名目

名目 × 物価 = 実質

名目 + 物価 = 実質

(24) GDPデフレーターと同じ性質の経済指標はどれか

消費者物価指数 失業率 経済成長率 労働力率

(25) 付加価値を式で表すとどのように表されるか。

付加価値 = 生産額 × 中間投入

付加価値 = 生産額 / 中間投入

付加価値 = 生産額 + 中間投入

付加価値 = 生産額 - 中間投入

国民経済計算の諸概念について以下の値が与えられている。

国内総生産 300 固定資本減耗 10
 間接税 - 補助金 20 海外からの純要素所得 20

(26) 国民総生産はいくらか。

390 310 320 330

(27) 国民純生産はいくらか。

390 310 320 330

(28) 国民所得はいくらか。

290 310 320 330

ある国ではリンゴしか生産していないとする。右に列に 2000 年と 2001 年のリンゴの生産量と価格が書いてある。これを用いて表のそれぞれの数値を埋めよ。

	名 目 G D P	実 質 G D P	G D P デ フ レ ー タ ー	リンゴの 生 産 量 (個)	価格(円)
2000	(1)	(2)	100	10	100
2001	(3)	(4)	(5)	10	150

(29) 表中 (1) はいくらになるか。

1000 1500 150 100

(30) 表中 (2) はいくらになるか。

100 1000 150 10

(31) 表中 (3) はいくらになるか。

10 150 1500 1000

(32) 表中 (4) はいくらになるか。

10 150 1500 1000

(33) 表中 (5) はいくらになるか。

10 1000 1500 150

(34) 水とダイヤモンドのパラドックスとは何か

水は飲めるが、ダイヤモンドは硬い。

水を得るのは難しいが、ダイヤモンドを買うのは容易である。

水は必要なものののに安く、ダイヤモンドは必要不可欠ではないのに高い。

水とダイヤモンドは同じようにみえるが、値段が違う。

(35) 日本経済の用語で、1960年代から70年代までをなんと呼ぶか。

失われた10年 高度成長期 大躍進 平成不況

(36) 次ページのグラフで(1)は何を示すか。

消費者物価指数 消費者物価上昇率 企業物価指数 企業物価上昇率

(37) 次ページのグラフで(2)は何を示すか。

消費者物価上昇率 消費者物価指数 企業物価上昇率 企業物価指数

(38) 次ページのグラフで(3)は何を示すか。

長期金利 日経平均株価 S & P 500 対ドル円レート

(39) 次ページのグラフで(4)は何を示すか。

消費者物価指数 失業率 実質GDP成長率 平均消費性向

(40) 次ページのグラフで(5)は何を示すか。

労働力率 インフレ率 失業率 実質GDP成長率

(41) 次ページのグラフで(6)は何を示すか。

長期金利 日経平均株価 対ドル円レート コールレート

(42) 次ページのグラフで(7)は何を示すか。

コールレート FFレート 長期金利 対ドル円レート

(43) 次ページのグラフで(8)は何を示すか。

マネーサプライ 実質GDP 日経平均株価 失業率

(44) 次ページのグラフで(9)は何を示すか。

マネーサプライ 実質GDP 日経平均株価 失業率

(45) 次ページのグラフで(10)は何を示すか。

対ドル円レート 日経平均株価 失業率 消費者物価上昇率

問題2 (10点)

「どのような質問をするかで、その人がその事柄を理解しているかどうか分かる」と言われています。そのことを踏まえた上で、授業を聞いていて疑問に思ったことを書いてください。(疑問が何もないというのは、全部わかっているというより、まったくわかっていない可能性のほうが高いので0点)」

合わせて、改善点、感想なども書いてください。

